

トレパン(ディスポパンチ)を用いた小外科術

表皮嚢腫・毛嚢嚢腫に対する臍抜き法

石灰化上皮腫に対する臍抜きに準じた手法/脂肪腫切除法/側切開併用法

医療法人新生会 八幡病院 皮膚科 部長 前田 学 先生

数十年前の話であるが、岐阜市司町の旧岐阜大学病院で知り合いの検査技師が項部のクルミ大の表皮嚢腫の切除を希望して受診したことがある。この症例に対して、トレパン器具を用いて臍抜きをして、その孔から表皮嚢腫の壁を丸ごとそっくり取り出すことに成功した。しかも、術後同部に大きなデッド・スペースが出来たが、数日で急速に縮小し、経過が極めて良好で綺麗な仕上がりととなった。この例は小生にとっても最初で感無量であった。この鮮明な印象から、以後、数々の症例に試み、累計は数百例以上に及ぶ。

露出部、特に顔面や頸部には有用で、切開線を極小に留めることで良好なQOLを得ることができる。ただし、多少の手技を必要とするのが難点である。背部などの皮膚および皮下組織の厚い部分では壁の剥離が困難なことが多く、壁の残存があると、数ヶ月後に再燃する可能性が高くなるので注意を要する。代表例を以下に紹介する。

表皮嚢腫・毛嚢嚢腫に対する臍抜き法

27歳・男、右眼瞼外側部の表皮嚢腫例(図1a,b,c)、フック・ピンセットを用いて嚢腫壁を全摘し、単純縫合した。美容的にも有用といえる。



図1a 術前



図1b 術中



図1c 術直後

62歳・女、頭部の表皮嚢腫例、径6mmトレパンにて中央部の臍部を含めて孔を開けて、剥離クーパーで壁外周を剥離して全摘出来た例である(図2a,b,c)。



図2a 術前

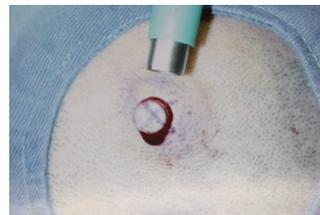


図2b 術中

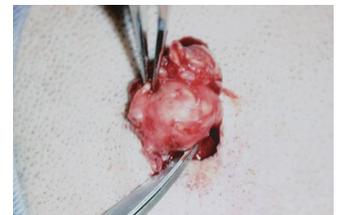


図2c 術直後

59歳・男、項部の毛嚢嚢腫例(図3a)、径8mmトレパンで中央部の臍を切除し、この孔から嚢腫壁の外周にクーパーを差し込んで剥離し、壁全体を摘出した(図3b,c)。事前にマーキングした大きさに比較して切開部が著明に少ない点に注目いただきたい。

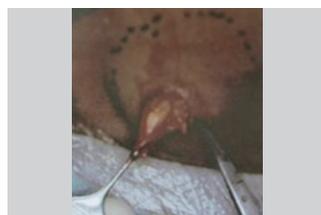


図3a 術中



図3b 術直後



図3c 摘出標本

足底に生じた表皮封入体嚢腫(図4a)に対しても同様に径3.5mmのトレパンを用いて、嚢腫のみ摘出できる(図4b,c)。特に足底ではメス刃を用いた通常の方法では切開線が大きくなるため、術後の疼痛や歩行困難を軽減出来る利点は見逃せない。



図4a 術前

(径3.5mmトレパン使用)



図4b 術中

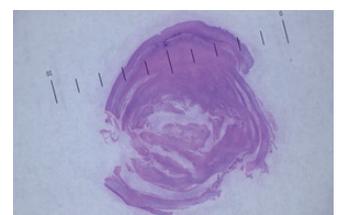


図4c 病理組織像

石灰化上皮腫に対する 臍抜きに準じた手法

前述の嚢腫に準じて小型の孔を開けて、この孔から内部の腫瘍塊を取り出す方法である。腫瘍塊が硬い場合には半割して取り出す必要がある。生理食塩水で十分に洗浄する必要があるが、再発例は1例のみで、想定以上に少ない。仕上がりの良さは一押しといえる。

以下に見本例を紹介する。図5aは60歳・女の右眉毛上部の石灰化上皮腫例で、径3.5mmトレパンで腫瘍塊を全摘し、8カ月後も経過良好(図5b)である。病理組織では表皮側と真皮側に分割されているが、取り切れている(図5c,d)。



図5a 術前
(径3.5mmトレパン使用)



図5b 術後

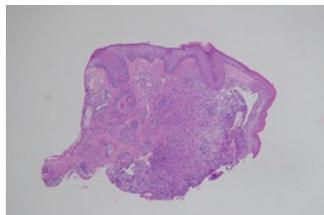


図5c 病理組織像(表皮側)

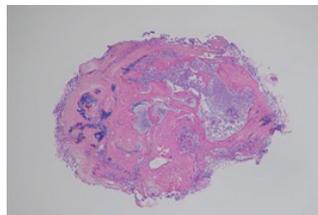


図5d 病理組織像(下部側)

脂肪腫切除法

メスで切開して内容物を除去する方法が一般的であるが、症例によっては臍抜き法に準じて、中央部にトレパンで穴を開けてトレパン孔部から脂肪塊を引っ張り出して排出させることも可能である。

参考例を図6aに示す。51歳・女で左臀部の皮下の腫瘤で診断確定のために直径3.5mmのトレパンで皮膚生検を試みたところ、明らかに脂肪腫と判明したのでこの穴から全摘出を試み、成功した、重量は10.1グラムであった。

通常は円弧状に周辺からやや中央側に切開線を入れて剥離クーパーで底部をまず剥離して順に側縁から上部を剥離して切除する方法が楽で失敗が少ない。



図6a 術前



図6b 術中



図6c 術後、切開線が目立たない

側切開併用法

皮下腫瘍や嚢腫が比較的巨大な場合には臍抜き法や球状(円錐・台形)切除では対応が困難なことがある。こうした例には腫瘍の外周に弧状に側切開を加えて腫瘍巢の底部を剥離して巢を引き出す方法がある。トレパンは嚢腫開口部を部分的に切除するのに使用できる。

図7aは32歳・女の毛嚢嚢腫例臨床像で、側切開後に嚢腫を摘出(図7b)し、ドレーン留置した(図7c)。摘出した標本は一塊となって、破損はみられない(図7d)。



図7a 術前



図7b 術中



図7c 術後、ドレーン留置



図7d 摘出標本

製造販売元

カイ インダストリーズ株式会社
医療器事業本部 国内営業部

〒501-3992 岐阜県関市小屋名1110
Phone (0575)28-6600 Fax (0575)28-6611
<https://www.kaimedical.jp/>

製品情報はこちらから
ご覧いただけます

